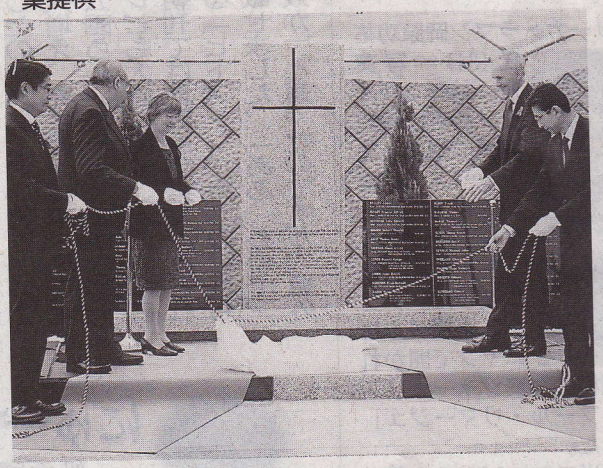
連合軍捕虜の慰霊碑

電気化学工業青海工場内

第二次世界大戦中、「東京俘虜収容所第13分所」があった糸魚川市（旧青海町）の電気化学工業青海工場内に、収容中に死亡した米英兵らの慰霊碑が建てられ、5日に除幕式があった。元捕虜の家族、リンダ・ニコルスさん(67)＝英国ノーフォーク州＝は「再び戦争を起こさないためにも、過去を振り返るきっかけになれば」と平和と友好の継続を訴えた。【浅見茂晴】



英国大使も参加し除幕された慰霊碑＝電気化学工業提供

かつての収容所 遺族訪問きっかけ

「心和らげる一助に」

「第13分所」は1943（昭和18）年に建設。2000平方㍍の敷地に2階建ての施設があり、高さ約3㍍の塀が巡っていた。英米兵を中心に約600人が収容され、元捕虜の手記によると、捨ててあった半分のオレンジを奪い合うけんかまであったほど食糧事情は悪く、栄養失調などが原因で60人が死亡した。終戦直後の45年9月に閉鎖された。

慰霊碑の建設は、捕虜だった元英国兵、故アーサー・ロバート・ジョーンズさん（2008年、90歳で死亡）に代わって、長女のリンダさん夫婦が2010年に現地を訪問したのがきっかけ。跡地を示すものがないため、英国大使に「慰霊碑ができればすばらしいのだが」と話したところ、同大使館を通じてリンダさんの希望を知った同社が費用を全額負担して碑を建てた。同社は「亡くなった兵士の遺族に寄り添い、心を和らげる一助になれば」と説明する。

碑は高さ2㍍、幅4㍍。中央には建設の経緯が記され、両側に亡くなった兵士の名前や階級、所属部隊名が記されている。

同社によると、報道陣に非公開で行われた除幕式には、リンダさんら元捕虜の遺族ら約20人とティム・ヒッチンス大使ら英国大使館スタッフ、日本側は吉高紳介社長ら電化関係者と民間団体の計約60人が出席。吉高社長が「平和な世界が実現されるよう、お祈りしたい」とあいさつし、出席者は献花後、工場内を巡った。

式典後、リンダさんは報道陣の取材に「父がここから生きて帰らなかったら私は生まれなかった。今日は私の日だ」と感慨深げに話した。「互いの国民が過去を乗り越えて、心から和解するにはどうすればいいか」との質問には「お互いの教育を通して学び、知り合うことで、許すことができる」と答え、双方が努力する必要性を訴えた。